

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業  
IgG4 関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究  
(総合)分担研究報告書 (平成 29～令和元年度)

自己免疫性膵炎に関する研究

研究分担者 氏名 仲瀬 裕志 所属先 札幌医大消化器内科 役職 教授  
研究協力者 氏名 本谷 雅代 所属先 札幌医大消化器内科 役職 助教

研究要旨：当院では自己免疫性膵炎をIgG4関連疾患の一臓器病変として消化器内科および免疫・リウマチ内科にて診療している。今回それぞれの科における症例の病態について検討した。消化器内科で取り扱う症例に比し免疫・リウマチ内科症例は多臓器病変が多く診断時血清IgG4も高値が明らかとなった。以上の結果を踏まえて関連する診療科横断的なコホートが今後のIgG4-RDの病態解明・治療方針研究に必要であると考えられた。

共同研究者

高橋 裕樹(札幌医大免疫・リウマチ内科)  
山本 元久( 同上 )

D. 考察

過去の膠原病内科医のコホートとB群は類似点が多く、より全身性の病態を反映していることが示唆された。

A. 研究目的

消化器内科、免疫・リウマチ内科それぞれに診療している自己免疫性膵炎について病態・臨床経過を明らかにする。

E. 結論

診療医師の専門領域により、集積される病態に偏りが見られることから、消化器内科・膠原病内科のみならず、関連する診療科横断的なコホートが今後のIgG4-RDの病態解明・治療方針研究に必要であると考えられた。

B. 研究方法

2002年から2016年までに当院で膵病変を含むIgG4関連疾患と診断した48例を後方視的に検討した。

F. 健康危険情報

なし

(倫理面への配慮)

「ヘルシンキ宣言(2013年10月修正)」及び「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号、平成29年2月28日一部改正)を遵守して実施する。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

第48回日本膵臓学会大会ワークショップ4にて報告した。

C. 研究結果

対象は48例(消化器内科10例(A群)、免疫リウマチ内科38例(B群))。平均臓器病変数はA群で2、B群で4病変であった。治療前血清IgG4中央値はA群で229.5mg/dl、B群で739.0mg/dlでありB群で有意に高いことが示された。

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし